

来月デビュー「N700S」公開

新幹線 防犯機能を強化

東海道新幹線に7月1日、新型車両「N700S」がデビューする。13年ぶりのフルモデルチェンジで、座席のリクライニングや揺れ軽減装置の改良で「ワンランク上の乗り心地」を実現。客室の防犯カメラ増設や停電でも自力走行できるリチウムイオン電池のバッテリー搭載で、安全対策も



東海道新幹線の新型車両「N700S量産車」13日午前、JR東京駅

強化した。本年度中に12編成、2022年度末までに計40編成となる見込み。山陽新幹線への乗り入れも想定され、列島の大動脈輸送を担う次世代のエースになりそうだ。JR東海は13日、実際の営業運転で使う「N700S量産車」を東京―新大阪間で走行させ、内部を報道関係者に公開した。東京駅19番線では、入ってきた真新しい車両を親子連れらが撮影。午前10時すぎ、新大阪に向けて出発した。

新幹線車両の象徴となる先頭形状は5万種類超のシミュレーションを経て、トンネル進入時の空気抵抗を低減した。従来の東海道新幹線車両を踏襲し、1編成は16両で、普通席1123、グリーン席200の計1323席。全席にコンセントが配備され、無料Wi-Fiが利用

可能だ。シートの素材は、飲み物などでぬれるとすぐ気付けるよう、柄が変化する素材が使われている。客室では発光ダイオード(LED)による間接照明を採用。荷物棚は忘れ物を防ぐため、停車前に明るくなる。停車駅などの情報を表示する液晶ディスプレイは面積を既存車両より50%拡大した。車いす専用スペースは2台分。客室の天井にもカメラを設置し、1編成では計165台となる。5月から始まった特大荷物置き場や、従来通り喫煙スペースもある。客室と台車間にある油圧式の「フルアクティブ制振制御装置」はグリーン車と一部普通車に入り、揺れを抑える。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

7月1日デビューの新型車両「N700S」の特徴 (普通車・グリーン車共通)



忘れ物防ぐため停車前に荷物棚が点灯
客室の防犯カメラ増設
液晶ディスプレイの面積が50%拡大
リクライニングの機能を改善し座り心地向上
水にぬれると変色し 気づきやすい

- ※写真はグリーン車 全ての席でコンセント、無料Wi-Fi利用可
- 停電しても走行できるリチウムイオン電池のバッテリー搭載
- 「フルアクティブ制振制御装置」で横揺れ軽減
- 最高時速360キロの走行が可能だが、285キロで運転

① 新型車両「N700S」は何年ぶりのフルモデルチェンジですか。

年ぶり

② 新しい機能を分野別に書きあげましょう。

ア 乗り心地

イ 安全対策

ウ 客席の便利な機能を挙げてみましょう。